

ドコサン酸の細菌を用いる復帰突然変異試験

試験番号：3176（115-064）

財 団 法 人
食 品 農 医 薬 品 安 全 性 評 価 セ ン タ ー

目 次

1. 要 約	7 頁
2. 試 験 題 目	8
3. 試 験 目 的	8
4. 試 験 番 号	8
9. 被 験 物 質	9
10. 試 験 材 料 お よ び 方 法	10
11. 試 験 結 果	16
12. 考 察 お よ び 結 論	17
13. 参 考 と し た 資 料	18

Figures および Tables

Figure 1	Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA100	20
Figure 2	Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA1535	21
Figure 3	Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain WP2 <i>uvrA</i>	22
Figure 4	Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA98	23
Figure 5	Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA1537	24
Table 1	Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (1st trial) [direct method: -S9]	25
Table 2	Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (1st trial) [activation method: +S9]	26
Table 3	Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (2nd trial) [direct method: -S9]	27
Table 4	Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (2nd trial) [activation method: +S9]	28

1. 要 約 :

本試験条件下において、ドコサン酸には遺伝子突然変異を誘起する作用がないものと判断した。

ドコサン酸の変異原性について、遺伝子突然変異誘発性を検討するため、ネズミチフス菌 (*Salmonella typhimurium*) TA100, TA98, TA1535 および TA1537 株ならびに大腸菌 (*Escherichia coli*) WP2 *uvrA* 株を用いた復帰突然変異試験を行った。

その結果、ドコサン酸処理では 156~5000 μ g/プレート のいずれの試験用量においても、ラット肝ミクロソーム (S9) 添加の有無にかかわらず、溶媒対照に比べ復帰突然変異コロニー数の明確な増加は認められなかった。

一方、直接法および代謝活性化法での陽性対照物質は、それぞれの試験菌株に対し明確な突然変異誘発作用を示した。

2. 試験題目 : ドコサン酸の細菌を用いる復帰突然変異試験
3. 試験目的 : 被験物質の *in vitro* における遺伝子突然変異誘発性を検討するため、環保業第237号、薬発第306号、62基局第303号（昭和62年3月31日）の「新規化学物質に係る試験の方法について」ならびにOECD化学品ガイドライン 471 および 472（1983年5月26日）に従って、細菌を用いる復帰突然変異試験を実施した。
なお、試験の実施は環企研第233号、衛生第38号、63基局第823号（昭和63年11月18日）の「新規化学物質に係る試験及び指定化学物質に係る有害性の調査の項目等を定める命令第4条に規定する試験施設について」ならびにOECDのGLP（1982年）の基準を満たすものとした。
4. 試験番号 : 3176（115-064）

9. 被 験 物 質 :

- 1) 被験物質名 ドコサン酸
- 2) CAS No. 1 1 2 - 8 5 - 6
- 3) ロット番号
- 4) 純 度 85.9%
- 5) 提 供 元
- 6) 保 管 条 件 室温
- 7) 化 学 構 造
- $$\text{CH}_3 - (\text{CH}_2)_{20} - \underset{\text{O}}{\underset{\parallel}{\text{C}}} - \text{OH}$$
- 8) 分 子 量 340.59
- 9) 一 般 名 べへニン酸 (Behenic acid)
- 10) 物質の状態 白色固体
- 11) 融 点 76.5℃
- 12) 沸 点 306℃ / 60 mmHg
- 13) 溶 解 性 水に不溶
アルコール, エーテル, クロロホルム, アセトンに易溶
- 14) 安 定 性 水に安定.
- 15) 取り扱い上の注意 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので, 取り扱いに注意する.
- 16) 被験物質保管および
 残余被験物質の処理 保管用被験物質 (1 g) 以外の残余被験物質については,
 被験物質提供元に返却した.

10. 試験材料および方法 :

1) 試験菌株

細菌を用いる復帰突然変異試験において広く使用されていることから、試験菌株として次の5種類の菌株を選択した。

- a. ネズミチフス菌 TA100 (ヒスチジン要求性の塩基対置換型)
- b. ネズミチフス菌 TA98 (ヒスチジン要求性のフレームシフト型)
- c. ネズミチフス菌 TA1535 (ヒスチジン要求性の塩基対置換型)
- d. ネズミチフス菌 TA1537 (ヒスチジン要求性のフレームシフト型)
- e. 大腸菌 WP2 *uvrA* (トリプトファン要求性の塩基対置換型)

ネズミチフス菌は昭和58年9月9日に から、また、大腸菌については昭和58年3月16日に から分与を受けた。

平成8年11月13日に菌株の特性検査を実施し、本試験に用いた菌株が規定の特性を保持していることを確認した。

菌株の保存に当たっては、各菌株の菌懸濁液にジメチルスルホキシド (DMSO: GC用; MERCK 社; 純度 99.7%以上, Lot No. K22063378 534) を容量比 80:7 の割合で添加した後、凍結保存用チューブに 0.2 ml ずつ分注した。これを液体窒素を用いて凍結した後、超低温フリーザー (MDF-390AT; 三洋電機特機株式会社) に保存 (-80°C) した。

2) 培地の調製

a. 最少グルコース寒天平板培地 (プレート)

オリエンタル酵母工業株式会社製のテスメディアAN培地 (Lot No. AN720IL, 平成8年9月13日製造) を試験に使用した。本プレートは、Vogel-Bonner 最少培地Eを含む下記の組成の溶液 30 ml を無菌的にシャーレに分注したものである。

硫酸マグネシウム・7水塩	0.2 g
クエン酸・1水塩	2 g
リン酸二カリウム・無水塩	10 g
リン酸一アンモニウム	1.92 g
水酸化ナトリウム	0.66 g
精製水	200 ml
<hr/>	
グルコース	20 g
精製水	100 ml
<hr/>	
寒天 (No.1; UNIPATH 社; Lot No. 57225)	15 g
精製水	700 ml

b. トップアガー (軟寒天)

寒天 (Bacto-agar: DIFCO 社; Lot No. 95925JD) 0.6%を含む 0.5%塩化ナトリウム水溶液をオートクレーブで滅菌した後, ネズミチフス菌を用いる試験の場合, 0.5 mM L-ヒスチジン (関東化学株式会社; Lot No. 412E1389) - 0.5 mM D-ビオチン (関東化学株式会社, Lot No. 801S1718) 水溶液を寒天溶液10容量に対し1容量加え, 大腸菌を用いる試験の場合, 0.5 mM L-トリプトファン (関東化学株式会社, Lot No. 608E1385) 水溶液を同じく1容量加えた。

3) 試験菌株の前培養

内容量 200 ml のバツフル付三角フラスコに 2.5%ニュートリエントブロス (Oxoid Nutrient Broth No. 2: UNIPATH 社; Lot No. 256 56843) 溶液を 25 ml 分注し, これに凍結保存した菌懸濁液を融解した後, マイクロピペットを用いて 50 μ l 接種した。培養開始までの間冷却ユニット (ECS-1: 東京理化器械株式会社) を用いて 4 $^{\circ}$ C に保存し, その後ウォーターバスシェーカー (MM-10: タイテック株式会社) を用い, 37 $^{\circ}$ C で 6 時間振盪 (往復振盪: 120回/分) 培養した。培養終了後の菌懸濁液を使用時まで氷水中に保存した。

A TP フォトメーター (ルミテスター K-100: キッコーマン株式会社) を用いて計測した生菌数を以下に示した。

試 験	生 菌 数 ($\times 10^9$ /ml)				
	TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537
本試験 (1回目)	4.69	4.72	4.76	4.73	2.35
本試験 (2回目)	4.13	4.17	4.19	4.25	2.16

4) S 9 m i x

キッコーマン株式会社製の S9 mix (Lot No. FSM-354) を試験に使用した。なお、製造後 6 ヶ月以内の S9 mix を使用した。S9 調製の際の動物種、性、臓器、誘導物質、誘導方法等ならびに S9 mix の組成を以下に示した。

- a. ロット番号 R A A - 3 5 4
 b. 調 製 日 平成 8 年 11 月 1 日 (誘導物質投与開始後 5 日目)
 c. 使用動物 ラット: Sprague-Dawley 系
 d. 性 / 週 齢 雄 / 7 週 齢
 e. 体 重 192 ~ 242 g
 f. 臓 器 肝臓
 g. 誘 導 物 質 Phenobarbital (PB) および 5,6-Benzoflavone (BF)
 h. 投与量および投与回数 PB: 30 mg/kg 1 回 (1 日目), 60 mg/kg 3 回 (2 ~ 4 日目)
 BF: 80 mg/kg 1 回 (3 日目)
 i. 投 与 方 法 腹腔内投与
 j. 蛋 白 含 量 25.6 mg/ml

成 分	S9 mix 1 ml 中の量
S 9	0.1 ml
M g C l ₂	8 μ mol
K C l	33 μ mol
G - 6 - P	5 μ mol
N A D P H	4 μ mol
N A D H	4 μ mol
Na-リン酸緩衝液 (pH 7.4)	100 μ mol

5) 被験物質溶液の調製

被験物質を DMSO (Lot No. K22063378 534) に懸濁させ調製原液 (50 mg/ml = 5000 μg/プレートに相当) とした。この調製原液を使用溶媒を用いて所定濃度に希釈した後、直ちに処理を行った。但し、本被験物質の純度は 95% 未満であるため、純度換算を行った。

6) 対照群

a. 溶媒対照

溶媒対照として、使用溶媒の DMSO のみで試験した。

b. 陽性対照

DMSO (Lot No. K22063378 534) を用いて陽性対照物質を溶解し、少量ずつ分注した後凍結保存 (-20℃) した。これを融解した後、試験に用いた。

各菌株について、下記に示した用量で試験した。これらの試験用量は、労働省安全衛生部化学物質調査課編『安衛法における変異原性試験－試験ガイドラインとGLP』に準じて設定した。

《直接法》	菌 株	物質名	試験用量
ネズミチフス菌	TA100	AF-2	0.01 μg/プレート
"	TA98	"	0.1 "
"	TA1535	NaN ₃	0.5 "
"	TA1537	ACR	80 "
大腸菌	WP2 <i>uvrA</i>	AF-2	0.01 "

《代謝活性化法》	菌 株	物質名	試験用量
ネズミチフス菌	TA100	2-AA	1 μg/プレート
"	TA98	"	0.5 "
"	TA1535	"	2 "
"	TA1537	"	2 "
大腸菌	WP2 <i>uvrA</i>	"	10 "

AF-2 : 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド (和光純薬工業株式会社 ; 純度 98.0~102.0%, Lot No. CAP0185)

NaN₃ : アジ化ナトリウム (和光純薬工業株式会社 ; 純度 99.0%以上, Lot No. APH4078)

ACR : 9-アミノアクリジン塩酸塩 (ALDRICH社 ; 純度 98.0%, Lot No. CP01604TM)

2-AA : 2-アミノアントラセン (和光純薬工業株式会社 ; 純度 90.0%以上, Lot No. DCL3789)

c. 無菌試験

被験物質溶液 (調製原液) ならびに S9 mix について無菌試験を実施した。すなわち、100 μl の調製原液あるいは 100 μl の S9 mix にトッパアガー 2 ml を添加し、プレート上に注いだ。37℃の条件で48時間培養した後、雑菌汚染の有無を確認した。調製原液および S9 mix のいずれについても2枚のプレートを用いて無菌試験を実施した。

7) 復帰突然変異試験

a. 試験用量

用量当たり1枚のプレートを用いて実施した予備的な試験結果を以下に示す。

試験用量 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)	S9 mix	復帰突然変異コロニー数				
		TA100	TA1535	WP2 $uvrA$	TA98	TA1537
0	-	83	10	24	16	10
19.5	-	80	12	31	15	8
78.1	-	78	8	32	12	12
313	-	93	7	20	18	10
1250	-	72	7	24	11	8
0	+	95	10	38	27	7
19.5	+	94	6	39	28	8
78.1	+	105	14	41	26	11
313	+	96	12	32	21	11
1250	+	96	5	25	32	8

いずれの処理群においても試験菌株に対する生育阻害作用は観察されず、復帰突然変異コロニー数についても増加傾向は認められなかった。本結果を基に、本試験においては以下に示した用量を最高用量とし、それぞれ6用量（公比2）を設定した。

試験	最高用量 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)				
	TA100	TA1535	WP2 $uvrA$	TA98	TA1537
直接法	5000	5000	5000	5000	5000
代謝活性化法	5000	5000	5000	5000	5000

b. 被験物質あるいは対照物質の処理および培養時間

試験管に、使用溶媒、被験物質溶液あるいは陽性対照物質溶液を $100\mu\text{l}$ 、次いで直接法の場合、 0.1M ナトリウム・リン酸緩衝液 (pH 7.4) を $500\mu\text{l}$ 、代謝活性化法の場合、S9 mix を $500\mu\text{l}$ 分注した。さらに前培養した試験菌株の懸濁液 $100\mu\text{l}$ を加えた後、振盪恒温器 (M-100^N: タイテック株式会社) を用いて 37°C で20分間振盪培養 (プレインキュベーション) した。培養終了後、トッパアガーを 2ml 添加し、内容物を混合した。その後、混合液をプレート上に注ぎ一様に広げた。重層したトッパアガーが固化した後、恒温器を用いて 37°C の条件で48時間各プレートを培養した。

1用量当たり3枚のプレートを用いた。また、再現性を確認するため、本試験を独立して2回実施した。

c. コロニー数計測

被験物質の試験菌株に対する生育阻害作用を確認するため、プレート上の試験菌株の生育状態について実体顕微鏡（×60）を用いて観察した。次いで、復帰突然変異により生じたコロニーを計数した。計測に際してはコロニーアナライザー（CA-11；システムサイエンス株式会社）を用い、面積補正ならびに数え落とし補正を実施してコロニー数を算出した。但し、被験物質の析出によりコロニーアナライザーの使用が不適当な場合は目視で計数した。

8) 結果の解析

復帰突然変異コロニー数が溶媒対照のほぼ2倍以上に増加し、かつ、再現性あるいは被験物質の用量に依存性が認められた場合に、陽性と判定した。

統計学的手法を用いた検定は実施しなかった。

11. 試 験 結 果 :

1) 本試験 (1回目)

試験結果を Figure 1~5 および Table 1~2 に示した。

ドコサン酸処理による生育阻害作用は、直接法ならびに代謝活性化法とも観察されなかった。

復帰突然変異により生じたコロニー数については、各被験物質処理群とも溶媒対照群の値と比較して明確な増加は認められなかった。

一方、陽性対照物質はそれぞれの菌株において、溶媒対照群の2倍以上の復帰突然変異コロニーを誘発した。

リン酸緩衝液あるいは S9 mix 添加時、すべての用量で反応液の白濁が観察され、さらに塊状の被験物質が析出していた。コロニーの計数時においてもすべての用量でプレート表面に析出物が散在していた。この影響により、コロニーアナライザーの使用が不適切となったため、目視でコロニー数を計数した。

2) 本試験 (2回目)

試験結果を Figure 1~5 および Table 3~4 に示した。

被験物質処理群による生育阻害作用はいずれの試験用量においても観察されず、復帰突然変異コロニー数についても溶媒対照群と比較して増加傾向は認められなかった。

一方、陽性対照物質は各試験菌株に対し、復帰突然変異を顕著に誘発した。

被験物質の析出状況は1回目の試験と同様であった。

ドコサン酸調製原液ならびに S9 mix の無菌試験において、菌の増殖は認められなかった。

以上、2回繰り返して実施した試験において、直接法および代謝活性化法の両試験とも再現性が確認された。

12. 考察および結論：

ドコサン酸の変異原性，すなわち遺伝子突然変異誘発性の有無を検討するため，微生物（ネズミチフス菌・大腸菌）を用いたプレインキュベーション法による復帰突然変異試験を実施した。

最高用量として 5000 μ g/プレートまで検討した。その結果，ドコサン酸処理群では直接法および代謝活性化法のいずれにおいても，溶媒対照と比較し復帰突然変異コロニー数の増加傾向は認められなかった。

なお，溶媒対照群あるいは陽性対照群でのコロニー数はいずれも当施設での背景データの範囲内であり，本試験は適切な条件でなされたと判断された。

以上の試験結果から，本試験条件下においてドコサン酸の微生物に対する遺伝子突然変異誘発性は陰性と判定した。

類縁化合物である stearic acid, arachidic acid, erucic acid および lignoceric acid の変異原性試験についての報告はなかった。

13. 参考とした資料 :

- Ames, B. N., Lee, F.D. and Durston, W.E. : An improved bacterial test system for the detection and classification of mutagens and carcinogens, Proc. Nat. Acad. Sci., 70, 782 ~ 786, 1973.
- Ames, B. N. et al, : Carcinogens are mutagens : A simple test system combining liver homogenates for activation and bacteria for detection. Proc. Nat. Acad. Sci., 70, 2,281 ~ 2,285, 1973.
- Ames, B. N., McCann, J. and Yamasaki, E. : Methods for detecting carcinogens and mutagens with the Salmonella/mammalian-microsome mutagenicity test. Mutat. Res., 31, 347 ~ 364, 1975.
- 矢作多貴江 : 環境中の発ガン物質を微生物を使ってスクリーニングする実験法について, 蛋白質・核酸・酵素, 20 (13), 16 ~ 27, 1975.
- 労働省安全衛生部化学物質調査課編 : 安衛法における変異原性試験ーテストガイドラインとGLPー, 中央労働災害防止協会, 1991.
- 石館 基 監修 : 微生物を用いる変異原性試験データ集, エル・アイ・シー, 1991.
- Maron, D. M. and Ames, B.N. : Revised methods for the Salmonella mutagenicity test. Mutat. Res., 113, 173 ~ 215, 1983.

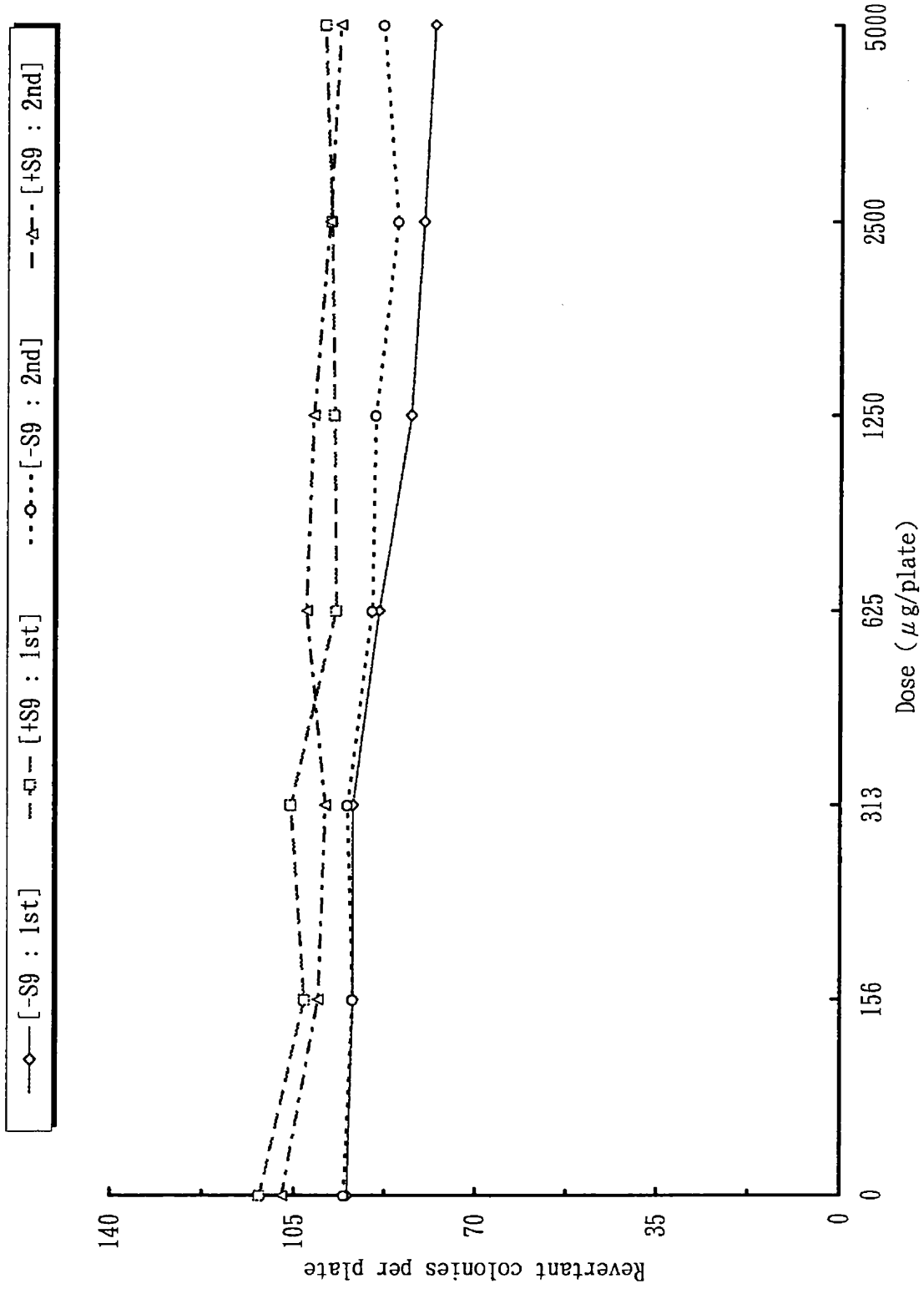


Figure 1. Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA100

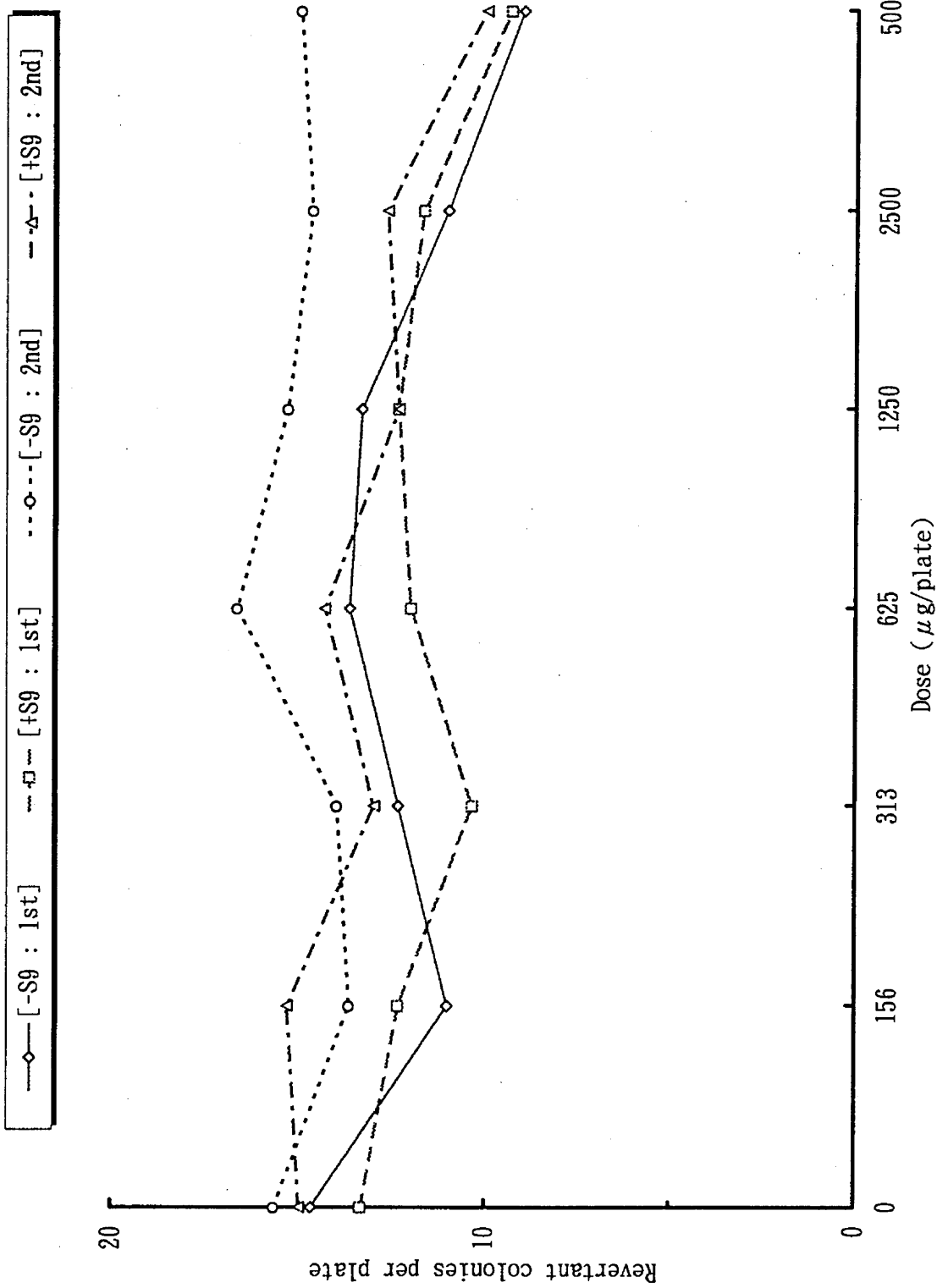


Figure 2. Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA1535

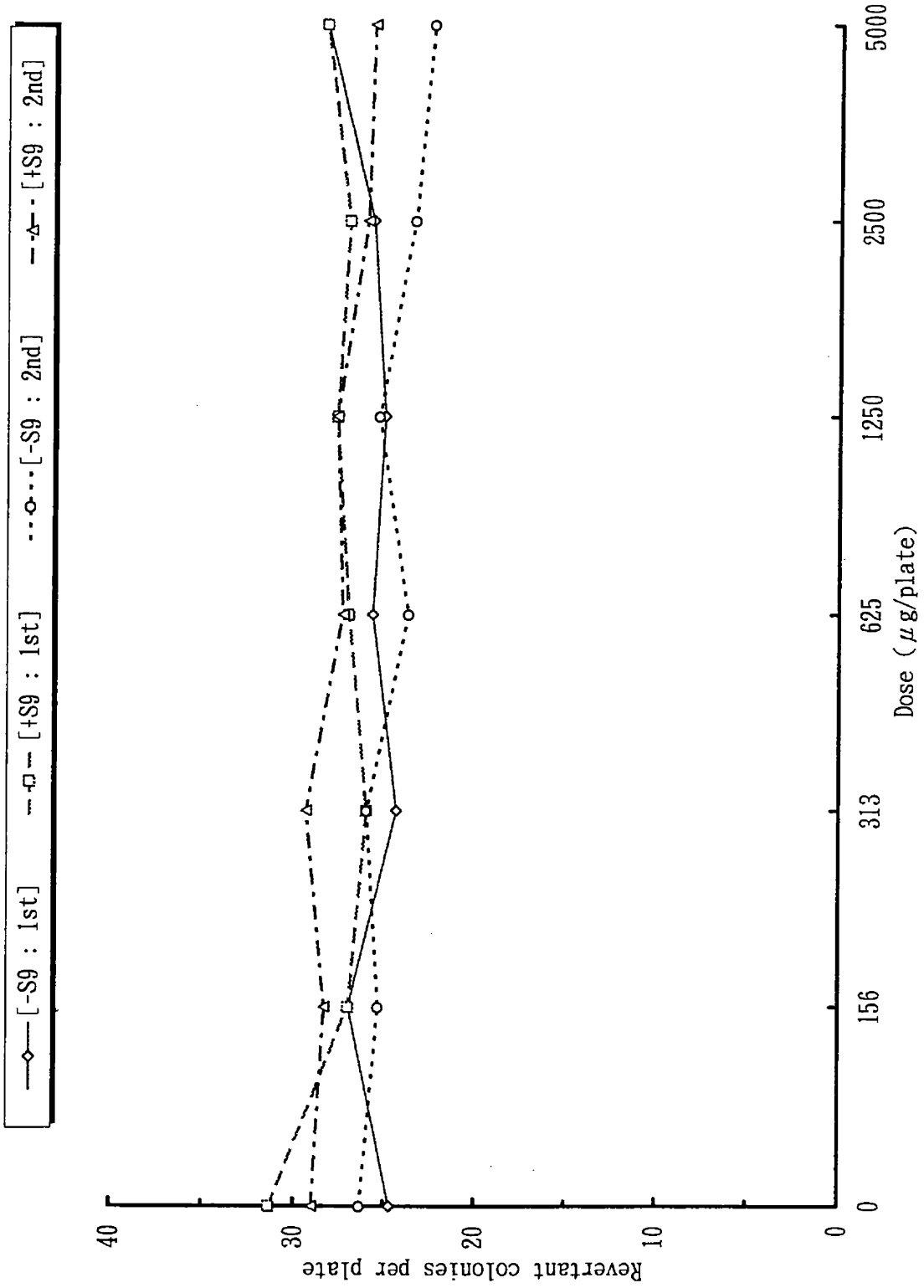


Figure 3. Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain WP2uvrA

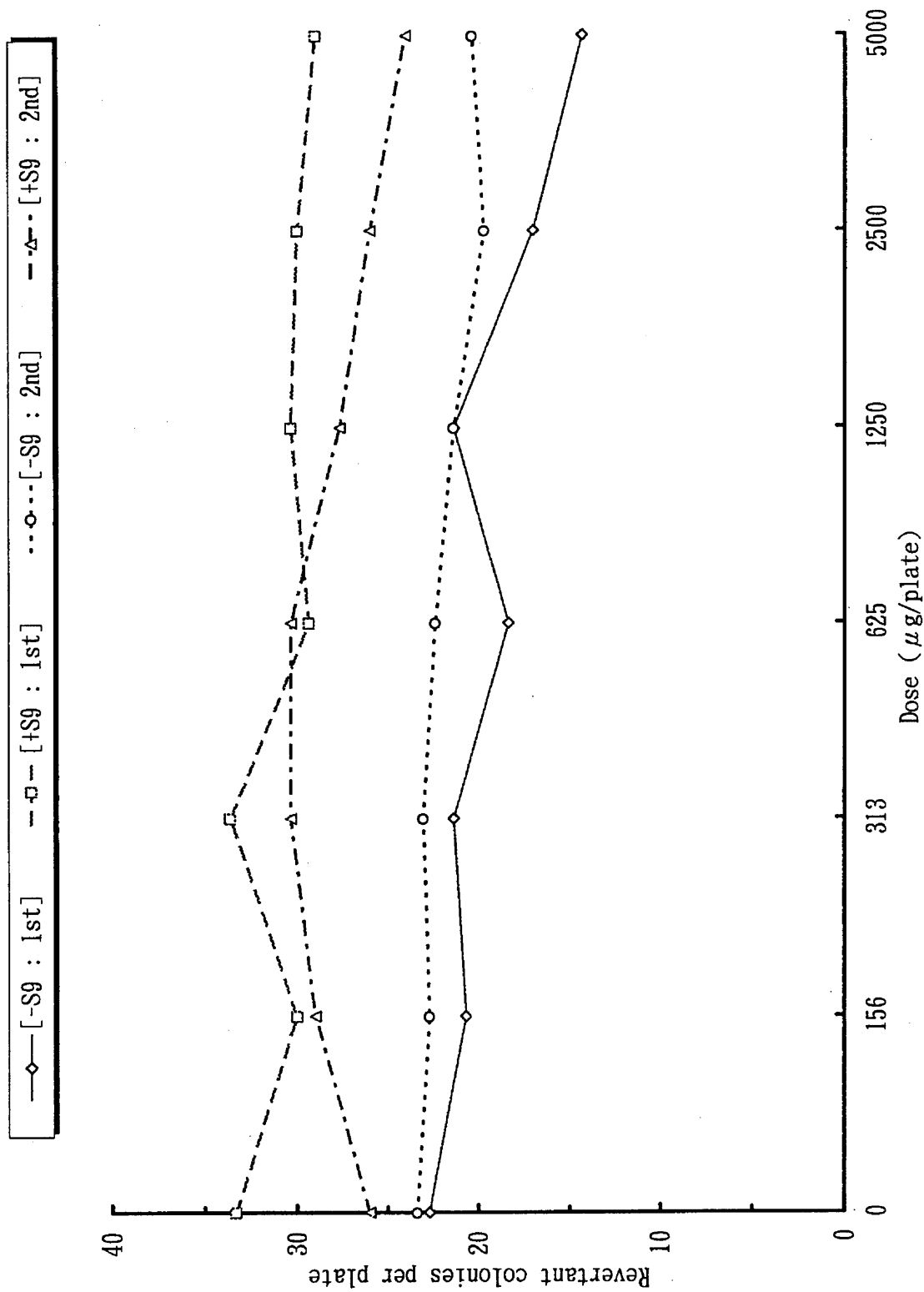


Figure 4. Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA98

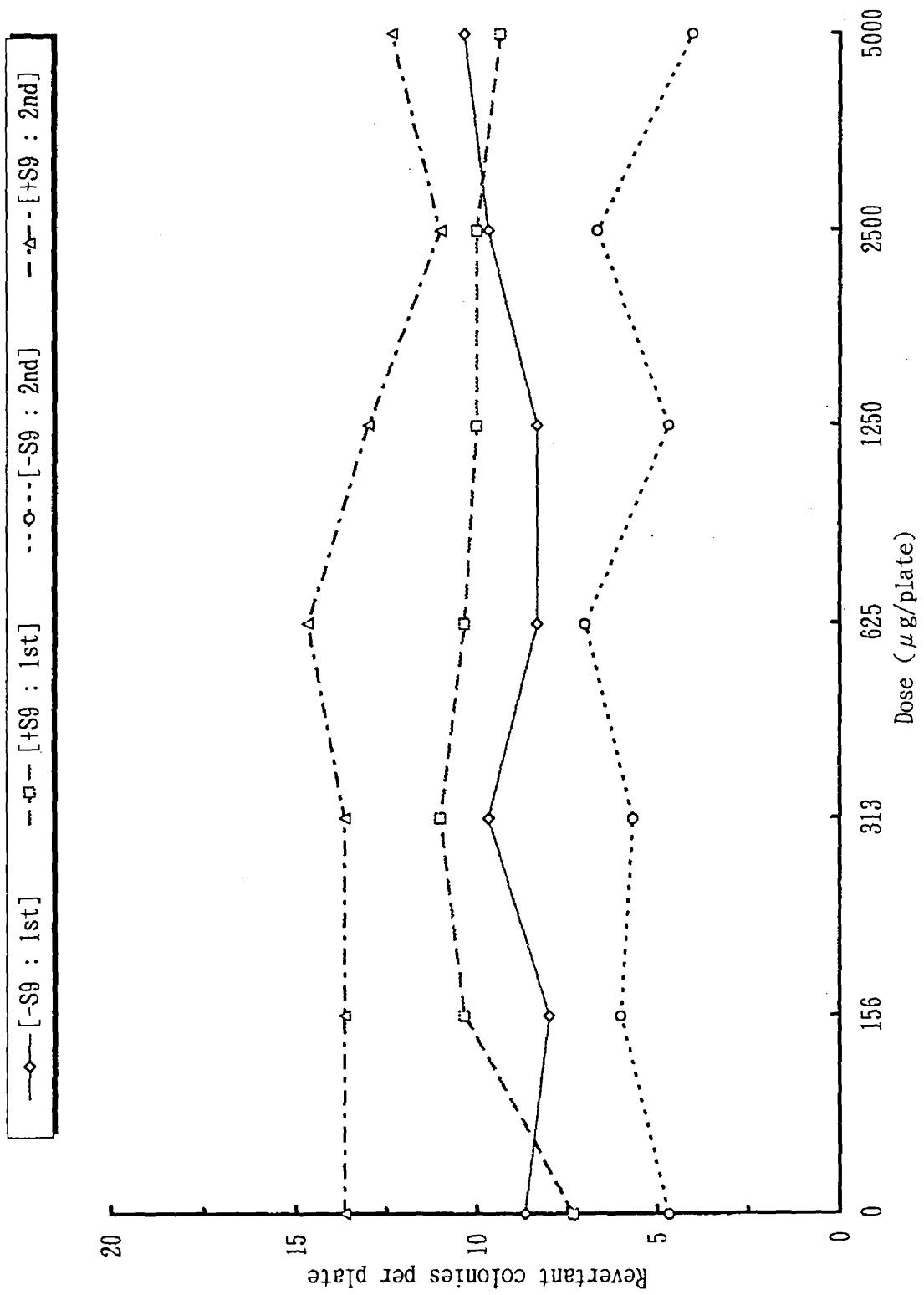


Figure 5. Bacterial reversion test of Docosanoic acid in strain TA1537

Table 1. Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (1st trial)
[direct method: -S9]

Compound	Dose ($\mu\text{g}/\text{plate}$)	Revertant colonies per plate [Mean \pm S.D.]				
		TA100	TA1535	WP2 <i>uvrA</i>	TA98	TA1537
DMSO#	0	93 [95 \pm 2]	15 15 14 [15 \pm 1]	27 24 23 [25 \pm 2]	21 21 26 [23 \pm 3]	9 7 10 [9 \pm 2]
Docosanoic acid	156 +	97 91 93 [94 \pm 3]	10 11 12 [11 \pm 1]	30 25 26 [27 \pm 3]	23 19 20 [21 \pm 2]	6 6 12 [8 \pm 3]
	313 +	97 95 89 [94 \pm 4]	14 11 12 [12 \pm 2]	25 25 23 [24 \pm 1]	20 26 18 [21 \pm 4]	9 8 12 [10 \pm 2]
	625 +	90 89 87 [89 \pm 2]	11 13 17 [14 \pm 3]	27 25 25 [26 \pm 1]	20 17 18 [18 \pm 2]	7 9 9 [8 \pm 1]
	1250 +	79 82 86 [82 \pm 4]	14 12 14 [13 \pm 1]	28 23 24 [25 \pm 3]	22 24 18 [21 \pm 3]	7 6 12 [8 \pm 3]
	2500 +	79 79 82 [80 \pm 2]	11 10 12 [11 \pm 1]	25 25 27 [26 \pm 1]	19 19 13 [17 \pm 3]	14 6 9 [10 \pm 4]
	5000 +	79 76 79 [78 \pm 2]	11 7 9 [9 \pm 2]	28 28 29 [28 \pm 1]	11 14 18 [14 \pm 4]	12 12 7 [10 \pm 3]
Positive control		700 684 676 ^{a)} [687 \pm 12]	424 414 428 ^{b)} [422 \pm 7]	180 162 177 ^{c)} [173 \pm 10]	440 491 449 ^{d)} [460 \pm 27]	479 523 470 ^{d)} [491 \pm 28]

: Solvent control + : Visible precipitation was occurred at the end of exposure period
a) : AF-2; 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide, 0.01 $\mu\text{g}/\text{plate}$ b) : NaNs; Sodium azide, 0.5 $\mu\text{g}/\text{plate}$
c) : AF-2, 0.1 $\mu\text{g}/\text{plate}$ d) : ACR; 9-Aminoacridine hydrochloride, 80 $\mu\text{g}/\text{plate}$

Table 2. Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (1st trial)
[activation method : +S9]

Compound	Dose (μ g/plate)	Revertant colonies per plate [Mean \pm S. D.]					
		TA100	TA1535	WP2 <i>uvrA</i>	TA98	TA1537	
DMSO#	0	116 [112 \pm 4]	14 13 13 [13 \pm 1]	30 33 31 [31 \pm 2]	35 31 34 [33 \pm 2]	7 8 7 [7 \pm 1]	
Docosanoic acid	156 +	107 99 103 [103 \pm 4]	10 15 12 [12 \pm 3]	28 29 24 [27 \pm 3]	28 29 33 [30 \pm 3]	7 12 12 [10 \pm 3]	
	313 +	101 117 99 [106 \pm 10]	15 7 9 [10 \pm 4]	25 26 27 [26 \pm 1]	38 30 33 [34 \pm 4]	13 7 13 [11 \pm 3]	
	625 +	100 96 95 [97 \pm 3]	12 14 10 [12 \pm 2]	28 26 27 [27 \pm 1]	30 33 25 [29 \pm 4]	13 8 10 [10 \pm 3]	
	1250 +	103 93 96 [97 \pm 5]	9 11 17 [12 \pm 4]	32 23 28 [28 \pm 5]	30 29 32 [30 \pm 2]	9 10 11 [10 \pm 1]	
	2500 +	100 100 94 [98 \pm 3]	12 14 9 [12 \pm 3]	30 25 26 [27 \pm 3]	30 28 32 [30 \pm 2]	10 7 13 [10 \pm 3]	
	5000 +	110 96 92 [99 \pm 9]	11 9 8 [9 \pm 2]	27 28 30 [28 \pm 2]	28 29 30 [29 \pm 1]	10 8 10 [9 \pm 1]	
Positive control		734 725 711 ^{a)} [723 \pm 12]	381 379 389 ^{b)} [383 \pm 5]	514 522 512 ^{c)} [516 \pm 5]	344 378 376 ^{d)} [366 \pm 19]	170 165 180 ^{b)} [172 \pm 8]	

: Solvent control + : Visible precipitation was occurred at the end of exposure period

a) : 2-AA; 2-Aminanthracene, 1 μ g/plate b) : 2-AA, 2 μ g/plate c) : 2-AA, 10 μ g/plate d) : 2-AA, 0.5 μ g/plate

Table 3. Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (2nd trial)
[direct method : -S9]

Compound	Dose (μ g/plate)	Revertant colonies per plate [Mean \pm S. D.]					
		TA100	TA1535	WP2 <i>uvrA</i>	TA98	TA1537	
DMSO#	0	95 [95 \pm 2]	14 16 17 [16 \pm 2]	26 29 24 [26 \pm 3]	24 21 25 [23 \pm 2]	6 4 4 [5 \pm 1]	
Docosanoic acid	156 +	97 92 92 [94 \pm 3]	14 14 13 [14 \pm 1]	25 26 25 [25 \pm 1]	23 25 20 [23 \pm 3]	8 4 6 [6 \pm 2]	
	313 +	92 97 95 [95 \pm 3]	11 16 15 [14 \pm 3]	25 28 25 [26 \pm 2]	20 22 27 [23 \pm 4]	7 7 3 [6 \pm 2]	
	625 +	90 90 90 [90 \pm 0]	16 17 17 [17 \pm 1]	25 26 20 [24 \pm 3]	20 23 24 [22 \pm 2]	7 7 7 [7 \pm 0]	
	1250 +	90 84 94 [89 \pm 5]	15 15 16 [15 \pm 1]	28 25 23 [25 \pm 3]	20 21 23 [21 \pm 2]	7 4 3 [5 \pm 2]	
	2500 +	79 88 88 [85 \pm 5]	14 17 13 [15 \pm 2]	23 23 24 [23 \pm 1]	20 19 20 [20 \pm 1]	7 7 6 [7 \pm 1]	
	5000 +	90 85 89 [88 \pm 3]	12 16 17 [15 \pm 3]	22 24 21 [22 \pm 2]	20 20 21 [20 \pm 1]	3 4 5 [4 \pm 1]	
Positive control		745 718 738 ^b [734 \pm 14]	436 433 430 ^b [433 \pm 3]	134 123 127 ^a [128 \pm 6]	444 442 431 ^c [439 \pm 7]	505 507 498 ^d [503 \pm 5]	

: Solvent control + : Visible precipitation was occurred at the end of exposure period

a) : AF-2; 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide, 0.01 μ g/plate b) : NaN₃; Sodium azide, 0.5 μ g/plate

c) : AF-2, 0.1 μ g/plate d) : ACR; 9-Aminoacridine hydrochloride, 80 μ g/plate

Table 4. Results of the bacterial reversion test of Docosanoic acid (2nd trial)
[activation method : +S9]

Compound	Dose (μ g/plate)	Revertant colonies per plate [Mean \pm S.D.]				
		TA100	TA1535	WP2 <i>uvrA</i>	TA98	TA1537
DMSO#	0 +	107 [107 \pm 3]	16 13 16 [15 \pm 2]	27 30 30 [29 \pm 2]	28 24 26 [26 \pm 2]	14 14 13 [14 \pm 1]
Docosanoic acid	156 +	99 102 100 [100 \pm 2]	15 15 16 [15 \pm 1]	28 28 29 [28 \pm 1]	28 31 28 [29 \pm 2]	15 14 12 [14 \pm 2]
	313 +	99 95 103 [99 \pm 4]	12 13 14 [13 \pm 1]	33 28 27 [29 \pm 3]	25 39 27 [30 \pm 8]	15 13 13 [14 \pm 1]
	625 +	101 106 101 [103 \pm 3]	16 14 13 [14 \pm 2]	29 26 27 [27 \pm 2]	30 27 34 [30 \pm 4]	16 16 12 [15 \pm 2]
	1250 +	100 106 98 [101 \pm 4]	14 11 12 [12 \pm 2]	33 25 25 [28 \pm 5]	26 27 30 [28 \pm 2]	14 13 12 [13 \pm 1]
	2500 +	98 97 100 [98 \pm 2]	11 13 14 [13 \pm 2]	25 25 28 [26 \pm 2]	25 26 27 [26 \pm 1]	10 11 12 [11 \pm 1]
	5000 +	100 98 91 [96 \pm 5]	9 10 11 [10 \pm 1]	28 24 25 [26 \pm 2]	24 23 25 [24 \pm 1]	11 14 12 [12 \pm 2]
Positive control		661 694 679 ^{a)} [678 \pm 17]	397 395 388 ^{b)} [393 \pm 5]	499 520 548 ^{c)} [521 \pm 22]	458 401 409 ^{d)} [423 \pm 31]	163 188 168 ^{b)} [173 \pm 13]

: Solvent control + : Visible precipitation was occurred at the end of exposure period

a) : 2-AA; 2-Aminocanthracene, 1 μ g/plate b) : 2-AA, 2 μ g/plate c) : 2-AA, 10 μ g/plate d) : 2-AA, 0.5 μ g/plate